

ESG投資と企業価値：CSR to CSVの観点から

伊藤 友則

目次

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. はじめに | 5. 資本市場のサポート |
| 2. CSRとCSVの違い | 6. ESG投資とCSV投資 |
| 3. CSVの実例 | 7. 終わりに |
| 4. CSVフォーラム | |

日本ではCSRは活発に行われているが、CSVを実現できている企業は少ない。CSVの実現には、必ずイノベーションが必要であり、CSVの実践は現代における新しい競争力創出の方法である。企業のCSV活動は結果が出るまで時間がかかるため、投資家がCSV活動を応援していくことが重要だが、ESG投資が成功するには、企業の競争力分析とESG評価とを総合したアプローチが重要である。

1. はじめに

ハーバード・ビジネススクールのマイケル・ポーター教授が“Creating Shared Value”（注1）の論文を発表したのは2011年だったが、筆者はこの論文を読んで少なからず驚いたのを今でも覚えている。ポーター教授は経営学の世界でも「競争戦略論」という新しい分野を打ち立てたわけであるが、競争戦略論とは、企業がいかに持続的に超過利潤を生みだすかをテーマにした学問分野である。その競争戦略論の創設者が「企業は経済価値（economic value）を創出するだけではいけ

ない。社会価値（social value）をも同時に創出しないといけない」と言い出したので驚いたのである。この論文の書き出しが“The capitalist system is under siege”（資本主義は危機に瀕している）ということからも分かる通り、08年の世界金融危機を見て、資本主義社会はこのままだといけなく強く感じたのが、この「宗旨変え」の要因なのだろう。この論文を契機に世界中で、いかにCreating Shared Value（以下、CSV）は可能なのかという研究が進み、CSVを実践している企業の例も多く紹介されてきた。日本においても、この論文の日本語訳も出され、ポーター教授



伊藤 友則（いとう ともりの）

一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授。1979年東京大学経済学部卒業。84年ハーバード・ビジネススクール経営学修士号（MBA）。79年東京銀行入行。95年スイス・ユニオン銀行（現UBS）東京支店入社、98年UBS証券会社マネージング・ディレクター投資銀行本部長。11年4月一橋大学国際企業戦略研究科特任教授、12年10月より現職。（株）パルコ社外取締役、（株）あおぞら銀行社外取締役、電源開発（株）社外取締役。